

# 明治時代の救済所の付帯施設など

## — 宿舎の他の建造物 —

### 稲荷山登山口



「三本足の白狐」の出現の後、亀三郎は稲荷社を建てました。そこに行く登り口。榊原救済所の入口でもあります。

### 常念仏堂



亀三郎は収容者の心のより所として宗教施設・拝殿などを複数建てています。

### 毘沙門天王拝殿



この拝殿は令和まで残っていました。正面から入ると大きな窓があり、そこから稲荷社が拝めます。建物の左に社の玉垣。

### 誓阿の名号碑 後の亀三郎の墓碑

大洪水で成岩町の共同墓地が流されました。墓地にあった誓阿の碑と行基の碑も倒れました。「俺が救済する」と亀三郎は誓阿の碑を持ち帰りました。行基の碑は鳳出観音教会に移築、今もあります。

亀三郎の死後、遺体はこの石碑の下に埋葬され、彼の墓碑となりました。

下の写真は捨てられていた石像や墓石。上の石碑の隣に祀られています。首のない石像もあります。石だって救済するのです。



### 満開の桜と作業小屋



「桜は成長が早い。桜に負けずにがんばれ」「桜は人の心を暖かくする」と亀三郎は桜を多く植えていました。

### 記念碑



救済事業への貢献者に感謝の意を表すための銘名碑。大正初期に建てられました。写真は平成24年のもの。今は史跡公園に移築されています。